

10月のおすすめ図書

開館時間 平日・土:9:30~18:00 日・祝日:9:30~17:00
休館日 毎週木曜、毎月第4金曜日、年末年始
問い合わせ 宇土市立図書館 ☎(22)4512



幼児向け

みーんなぎゅうぎゅうぎゅう

山口 てつじ / 作
アリス館



ねこも、すずめも、うさぎも、羊も、みーんな集まって、ぎゅうぎゅうぎゅう。ぎゅうぎゅうしながら、いっしょにご飯を食べたり、走ったり…。布に描いた絵を使用した、あたたかみのある絵本。

小学生低学年向け

トドにおとどけ

大塚 健太 / 作
かのう かりん / 絵
パイインターナショナル



トドさんに誕生日ケーキをとどけることになったカモメさん。ところが、おうちから出てきたのは、トドさんによく似たアシカさん。次に出てきたのも、これまたよく似たアザラシさん。やっとなどさんに会えたと思ったら…。

小学生高学年向け

たまご 命が生まれるしゅんかん

ドーリング・キンダースリー社編集部 / 企画・編集
水島 ばぎい / 訳
BL出版



鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、軟体動物…。どのたまごのなかにも、小さな命がある。命が生まれる瞬間を、たまごの様子を時系列で追った写真で紹介する。

中高生向け

サンショウウオの四十九日

朝比奈 秋 / 著
新潮社



私のすぐ隣にいる、もう一人のわたし。気鋭の作家が、医師としての経験と驚異の想像力で、二人で一つの身体を生きる姉妹の人生と命の普遍を描く。『新潮』掲載を単行本化。

一般向け

あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。 Another

汐見 夏衛 / 著
スターツ出版



ずっと待っていたの。もう一度あなたに会える日を…。『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』と、続編『あの星が降る丘で、君とまた出たい。』に出てきたキャラクターたちを主に『その後』を描いたスピンオフ短編集。

一般向け

からだを癒やしてくれる 100種類のハーブ

潤いのある暮らし研究会編
自由国民社



食べる、飲む、香りを楽しむ…。生活にもっとハーブを取り入れてみませんか。リラックス効果が高いラベンダー、咳や気管炎の症状を和らげるタイムなど、健康維持に役立つ100種類のハーブとその活用法を紹介します。

第121回

温故知新 くと学だより

圖文化課文化係 ☎(23)0156

知られざる大名の江戸暮らし

江戸時代、大名は1年ごとに江戸と自分の領地に住むことが義務付けられていました。歴史の教科書でおなじみの参勤交代の制度ですが、大名が江戸でどのように過ごしていたのかあまり知られていません。今回は大名の江戸生活に迫ります。

1 江戸城に登城

江戸滞在中の大名は、毎月3回(1日・15日・28日)、朝から江戸城に登城し、將軍に對面して御礼を述べることが定例となっていました。これは「月次御礼」と呼ばれ、大名の公務で最も重要なものでした。この他、年始や五節句(3月3日の桃の節句や5月5日の端午の節句など)、徳川家康が江戸城に入った日とされる八朔(8月1日)の祝日など、江戸城内で開催される季節ごとの公式行事の日にも大名は登城を義務付けられていました。

2 火事場へ急行

頻繁に大きな火事に見舞われた江戸では、消火活動を行う火消隊がいく

つも組織されてきました。このうち、江戸城や大名屋敷での火災に出勤したのが「大名火消」と呼ばれた火消組織で、華美な火事装束を身にまとった大名自身が陣頭指揮を執り消火活動にあたりました。第3代藩主の細川興生は、江戸滞在中に2度火災現場に出勤した記録が残り、享保2年(1717)1月22日に発生した江戸城の火災では、江戸城の北に架かる一橋御門の防火にあたり、幕府からその功績を褒賞されています。

3 お公家さんの接待

天皇のお言葉(勅旨)を將軍に伝える際、京都から江戸に天皇の使者が派遣されました。天皇の使者を「勅使」、上皇の使者を「院使」と呼び、江戸における彼らの世話は外様大名が務めました。食事や酒を提供して接待することを「馳走」といい、この役目は「勅使(院使)御馳走役」と呼ばれました。身の回りの世話から江戸城への案内、贈り物の手配、話し相手に至るまで、礼儀作法の指南役である高家の指導を

4 江戸城門の警備

江戸城の内堀と外堀には大小100以上の城門があり、各城門の警備は大名や旗本が交代で行いました。宇土藩は江戸城北東にある神田橋御門や常盤橋御門を担当し、門の開閉や通行人の監視・取締りなどの門番業務を務めました。この役目は江戸参勤中の大名が1年間担当することになっており、江戸藩邸の家臣の一部が門に詰めました。通常、大名自身が門に詰めることはありませんでしたが、御成(將軍の外出)の際に將軍が門を通行する時は、正装姿の大名が門に控えました。

5 余暇

多忙な公務の合間に、親しい大名同士で茶会や歌会を通じて交流したり、能を鑑賞したりするなど余暇を楽しみむこともありました。歴代の宇土藩主の中で江戸での生活を謳歌した人物が、文人大名として名をはせた第5代藩主の細川興文でした。様々な芸事に関心を示し、マルチな才能を発揮した興文が特に熱心に取り組んだのが尺八でした。琴古流尺八の家元・黒沢琴古のもとに足しげく通い、稽古に勤し

受けながら、宇土藩はしばしばこの役目を務めています。接待に必要な費用や高家に納める指導料は全て大名の負担とされたため、一度の役目で数千両を要しました。

んでいる記録が残されています。

多忙で気苦労が多かった大名の江戸生活。幕府から課される公役や大名同士の交際にも莫大な費用がかかり、藩の財政悪化の大きな要因になりました。興文のように江戸を楽しんだ大名がいた一方、幕府や他大名との付き合いやお金のやりくりを悩ませていた大名も多かったことでしょう。

【参考文献】 『新宇土市史』(通史編第二巻)



江戸城に登城する大名たち [千代田之御表 (正月元日諸侯登城御玄関前之図)]

ブックスタートを知っていますか?

ブックスタートとは、赤ちゃんの幸せを願い、「初めて絵本を楽しむ体験」と「絵本」をプレゼントする活動です。宇土市では、保健センターで実施している生後3か月の健診において、2冊の絵本をお渡ししています。絵本は、図書館職員が厳選した赤ちゃんファーストブックとなりますので、どうぞお楽しみに!



図書館公式

LINEアカウント連携で もっと便利に!



LINE連携するとできること

- 1 蔵書検索
2 利用者カード番号表示※
3 本の予約など※

※事前に図書館のHPに登録する必要があります

お友達登録をお願いします!

